

かわむらこどもクリニックNEWS

Volume 11 No 02

116号

平成15年 3月 1日

かわむらこどもクリニック 022-271-5255 HOMEPAGE <http://www.kodomo-clinic.or.jp/>



理念をカタチに

院長

2003年2月20日で、開業10周年を迎えることが出来ました。これもひとえに、かかりつけ患者さんをはじめ様々な方々の御支援と御指導の賜物と感謝しております。

思い起こせば10年前、大きな不安を抱えたままの開業の始まりでした。他県での新生児医療のあと、地元の病院とのかかわりの無いままの開業で、自分自身で落下傘部隊と称しておりました。上手いところに着地すれば味方、場合によっては敵地の真ただ中に取り残される危険さもありました。支えが少ない中、自分の支えとなったのは開業理念でした。今では理念は当たり前で、大きな病院では（もちろん開業医でも）待合室に大きく理念が掲げられています。しかし理念とは掲げられるものではなく、実践されなければ意味がありません。またこの評価は自分自身で行うものではなく、他人が行うものです。理念を掲げても誰にも評価されなければ、自己満足になるだけのものです。

開業理念の「お母さんの不安・心配の解消」が、はたして理念としてカタチになってきているのでしょうか。少し10年を振り返りながら、考えてみたいと思います。最初に理念を実践する方法は、もちろん診療場面です。来院する親御さんは、皆さん心配や不安を抱えて来ます。「不安・心配の解消」に対しては、十分話を聞いて十分な説明をするということにつきまします。理念をもとに診察を行い、「薬局でもらう袋の中には薬以外に、安心も入っている」との思いをもって患者さんに接してきました。しかし診察だけで理念が浸透するものとは思ってはいませんでした。御存知のように、その後理念をカタチにするために様々な方法を試みてきました。最初の試みは、1993年6月から発行した「かわむらこどもクリニックNEWS」でした。院長の

様々な考え方、医療の最新情報、病気の解説、症状の対処法などから始まり、最近では親御さん達の反応も多くコミュニケーションのための道具にもなっています。せっかく新聞を発行しても読まれていない場合もあるという反省と、情報は受け取らなければ、ただのデータの垂れ流しで情報とは呼べないことを学びました。蓄積したデータを求める人達に、情報として提供するために1996年1月「かわむらこどもクリニックHOMEPAGE」を開設しました。窓口を設けていないにもかかわらず相談が来るようになり、理念である「不安・心配の解消」の全国展開として医療相談をはじめました。思わず首をかしげたくなるような相談や親御さんの子どもを思う深さを感じさせる相談などがよせられ、またまた多くのことを学びました。相談の中には、主治医には向けない（向けられない）様々な思い、不安・心配が解消されずに帰路につく患者さんの姿がありました。かかりつけの患者さんが同じ思いをもって、混んでいるから、忙しいから、聞いたら恥ずかしいなどで、我慢しているかもしれないということに思いが及びました。実際この時期になると混雑することも多く、診療場面だけでは「不安・心配の解消」が不十分との意識も持つようになりました。診療場面で不十分であれば、診療以外で解決する方法を模索するしかありません。そして始まったのが、1998年5月からの育児サークル「お母さんクラブ」です。その頃医療上での様々問題（医療事故など）がマスコミを賑わすようになり、多くの問題の解決のためには医師と患者さんのコミュニケーションの大切さを感じました。また理念の実践のためにはコミュニケーションこそ、重要な要素と考えるように至りました。またコミュニケーションとは医師と患者さんというものではなく医療機関（クリニック）と患者さんのというのが本当の姿です。クリニックと患者さん、そして孤立化が危惧されているお母さん同士のコミュニケーションを確立するため、現在も活動を続けています。しかし「お母さんクラブ」の開催は木曜のため仕事を持ったお母さんは参加できず、もちろんお父さんの参加も現実には不可能です。無意識にかかりつけの患者さん達に差別をつけている反省と、お父さん方にも何らかの形として参加できる方法として、2000年10月「かかりつけ患者さん専用のアドレス」を設定し、毎月30件以上の患者さんとメールの交換をしています。

この10年、いかにして理念をカタチにしていくかということに、努力を続けてきました。一つ立ち上げると問題点が見えて来ます。その問題に対する対応にも新たな問題点が浮かび上がってきます。途中で挫折しそうなこと

も何度もありました。その度に多くの患者さん、HPへアクセスしてくれる方々、医療相談をされた方々の、多くの応援や感謝の声に支えられてきました。その支えによって、また新しいことが生まれて来たのです。理念の評価は自分では出来ないと書きました。当院の理念の「お母さんの不安・心配」がどの程度浸透しているのかは、定かではありません。また幸か不幸か（本当は幸なのですが、忙しくなるのは不幸とも）、雑誌、新聞、ラジオ、テレビなど様々な領域から様々な依頼も来るようになりました。

様々な領域の多くの方々に支えられ、無事10年を乗りき

ることが出来ました。あっという間に過ぎてしまいました。本当に幸せ者だと思っています。理念をカタチにすることはやさしいことではありません。理念とは理想のようなものであり、果てしなく広がっていくものです。これからも理念を少しでも形にするため、努力を重ねていきたいと思えます。

最後に、当院を支えて下さっている多くの方々とスタッフにも、この場を借りて感謝の意を表したいと思えます。本当にありがとうございました。そしてこれからもよろしくお願ひいたします。

患者さんからの言葉

患者さんから頂いた投書やメールを紹介しします。全て10周年特集号に頂いたものです。本当にありがとうございました。（掲載は50音順です）皆さんの思いをなるべく伝えるため、原則として原文のままとしました。

川村先生、十周年おめでとうございます。先生には長い10年だったのでしょうか？。あっという間の10年だったのでしょうか？。私はその内の4年しか分かりませんが、その4年は大変お世話になった4年間でした。これから先の10年もよろしくお願ひします！。年子三人の相沢より。

10周年おめでとうございます。川村先生が「お母さんの不安・心配の解消」の理念を持って、クリニックを開院した10年前、私は「お母さん～」とは、全く無縁の新卒の社会人一年生でした。しかーし！、その2年後には結婚し、3年後には、初！クリニックで、初！小児科で、長男の2ヶ月検診をお願いしました。今ほど、先生もクリニックも有名じゃなかった（私が知らなかっただけなのか？）様で、「小児科どこにしようかな～」と、思っていたときに、たまたまクリニックの前を通りかかり、かわいらしい外観と、看板に惹かれて検診の予約をしたのでした。当時、2ヶ月にしてはあまりにも太った息子を心配していた私に、先生が「大丈夫。世界一大きい赤ちゃんになったら、一緒にテレビに出てあげるよ。」って、言ってくれたの憶えています～？。その後、いろいろありましたが、本当にあの時、「かわむらこどもクリニック”ポロ”でなくて良かった～！今は、一年に数える程しかお伺いできませんが、「病院なんて縁遠い方がいい」ホントの事ですけど、そんなこと言わないでね。川村先生。
青葉区 遠藤



クリニックとの出会いは、今から8年前になります。当時我が家は青葉区高松に住んでいたため、子供達は近いこともあり、川村先生にお世話になっていましたが、今から5年前に青葉区みやぎ台に引っ越してきました。それまでは、何かあればすぐ徒歩でいけたのに、今では片道20Km、さらに道路が混雑していると1時間かかる道のり。子供たちはいつ具合いが悪くなるかわからないし、‘この辺でどこか病院を探さなくては’と何度か浮気(?)をしました。が、最後には川村先生の顔と、あの言葉が浮かんで来るんですよ。不思議なことに、、、。「お母さんだって熱が高くて具合いが悪いときにどんぶり飯出されたって食べられないでしょ。それと同じ。水分さえ取れていればいいんだから。」この言葉に“うん、うん”とうなずいて2往復したこともあったっけ。診察はもちろん大事だけど、カルテに書きながら話をしてくれる先生のながし目と、癒しのフレーズを聞きたくて、遠路はるばる通うのでありました。これからも、先生をはじめ、明るく元気なスタッフの皆様宜しくお願い致します。青葉区みやぎ台 及川未来、栞、山本瑞希、珠穂の母より。P.S.思い出はいろいろあるけれど（栞の食中毒入院事件、クリニックの前で車が動かなくなって廃車にしたこと、イタリアに住む姉の子がお世話になったこと、最近では山本玲子、瑞希母子のインフルエンザこじらせ事件etc）。そうすると短編になりそうなので、遠くてもクリニックファンがいることをメインに書いてみました。

お久しぶりです、お元気でお過ごしですか。船橋の木内広美です。開院10周年おめでとうございます！いつもと変わらぬ朝をお過ごしでしょうか。立春生まれの長女が1歳の誕生日を迎え間もない頃開院したかわむらこどもクリニック。10年前のことではありますが、さまざまなことが今も鮮やかに私の心に蘇ってきます。ピカピカの病院、しばらくのあいだはいつ行ってもすぐに診ていただくことができ、時には待合室まで先生がきてくださり、ゆっくりいろんな話をしたことも。ピンクの壁に窓からひかりがさして、待合室の椅子に娘と一緒に寝そべってしまいそうな、ゆったりのんびりした雰囲気、懐かしい懐かしい思い出です。娘をおんぶしてクリーニング屋さんに行って、病院に行って、薬局行って、ローソンに寄る、そんなパターンでいつもいつも通ってました。点滴で1日中病院で過ごしてみたり、1日に何度も吸入しに行ったり、娘が病気のとき、船橋への引っ越しのときには、診察室で涙してしまったことも。本当にいつも暖かく迎えて励ましていただき、どれほど心の支えになったことか。私のように思い、慕っている患者が全国にたくさんいるんでしょうね。川村先生10年間ご苦労様！。ご自愛なさっていつまでもわたしたち子を持つ親の良き相談相手であり続けていただきたいと思えます。おかげ様で我が家は相変わらずです。早いもので、こちらでの生活もこの春には5年目になります。5年生の長女はいつも具合いがすぐれず、3学期は既に通算10日欠席、いつになったら丈夫になるんでしょうか。2年生の次女はすこぶる元気。一輪車に乗りながらなわとびをするという中国雑技団並みの技を習得、毎日男の子とこままわし対決に夢中です。またおめにかかる日を楽しみにしています。木内広美



「お母さん、病院の中変わってるよ。」先に玄関に入った息子が一言。(数ヶ月来ないうちに何が?)と身構えた母でしたが、病院中に飾られたたくさんのきれいな花を見て10周年であることを知りました。 過ごしやすいとしか思っていなかった待合室も、“もう10年なんだ”という目で見渡すと、子どもたちの手を経て大分味わい深い待合室になっているのに気が付きました。はがれた壁紙、色褪せた本やぬいぐるみ、動かないおもちゃ・・・(こう書くと、ずいぶん古臭く感じますね。ごめんなさい。) 今でも子どもたちが、それぞれの思うように遊んでいました。具合が悪いながらもつい遊びたくなってしまおうような、暖かで安心できる雰囲気があるのだろうか・・・と改めて思いました。 さて“もう10年なんだ”というより“初めてお会いした時から5年”という目で、川村先生やスタッフの方々を見ると・・・いつも優しくはつらつとしていて、とても頼りになるとしか思っていなかったのですが・・・なんて(笑)、5年の月日経っているなんて信じられません。忙しくても笑顔絶やさず、お変わりない姿にホッとすればかりです。 私にとって、かわむらこどもクリニックの魅力は ①安心できる味わい深い待合室 ②診察時「お、今日はどうしたんだ?」と息子に問いかけ、息子の言葉を待っていてくださる先生 ③(よし、なんとかなるだろう!)と母親である私に安心感を与えてくださる対応 ④スタッフの方々のポンッと背中を後押ししてくれるようなフォロー・・・の4つ。息子の身を思えば、あまり頻りに訪れたくない場所であることは確かなのですが、いざという時に頼りになる魅力的な病院に出会えて、本当に良かったと思っています。これからもよろしくお祈りいたします。あ・・・肝心なことを忘れていました。「10周年おめでとうございます。これからも先生やスタッフの皆様が元気で活躍されますことをお祈りいたします。」宮城野区 熊谷怜太郎の母より



10周年記念おめでとうございます。いつも色々ありがとうございます。郷古家皆かわむらこどもクリニックが大好きです。先生をはじめ、看護婦さん、受付の方、皆いい人ばかりです。いつも笑顔で迎えて下さり、優しく声を掛けて下さいます。不安、心配も帰る頃には安心に変わります。そんなかわむらこどもクリニックとの出会いは、今から7年位前でしょうか。初めて受診した日、今だからお話ししますが、'なんだかコワイ先生'と思ってしまった私です。(すいません) 熱心に説明して下さる先生に圧倒されたのかな?。その日沢山のクリニックNESを頂いて帰り家で読みました。読めば読むほど“スゴイ”の一言。信頼できる先生をみつけることができました。ずっと川村先生と決めていたのに、引越しやれんの誕生で一時離れちゃったこともありましたが、他の先生に納得ができなくて、頭の中は川村先生だったら、。。。ばかり。久々に受診すると先生も看護婦の中米さんも前と変わらずで、嬉しくてやっぱり“ここしかない”と決めたのです。かりんが幼稚園年少の頃、毎月熱をだしたり、自家中毒になったりで通ったことを覚えています。点滴も何度か経験したかりんは「手を温めますね」からはじまり、リアルに病院ごっこをして遊んでいました。毎回タクシーで通うのも大変と、私が車の免許を取ったのもこの頃でした。しかし、車庫入れが苦手で、、、。結局車で行ったのは数回、、、。今だに私だけで行くときは、タクシーか自転車です。(笑) れんが火傷をしてしまった時、昼休みに入る頃にもかかわらず、電話をすると「すぐおいで」と診て下さった先生。そんな優しい先生にすっかり甘えっぱなしで今までできました。主人を診て頂いたり、メールでは子供のことならず私のことまで図々しく相談してしまいすみません。お忙しいところに申し訳ないと思いつつも送ると、必ず返事を下さって、その度に安心していきます。最近はお陰様でかりんもれんもほとんど診て頂くこともなくなりました。ちょぴり寂しくてず〜とファイルしてあるクリニックNESがもらえないのが残念ですが、元気でいてくれることが一番ですね。 振り返ると色々と思ひだし長くなってしまいました。素晴らしい先生に出会うことができよかったです。これからもよろしくお祈り致します。先生あまり無理なさらないで下さいね。 宮城野区 郷古

かわむら先生、スタッフの皆様、10周年おめでとうございます。我が家の場合、長男が1才の時から親子共々お世話になり、もう9年が経ちます。その間感謝したいことは数えきれません。ありがとうございました。実はかかりつけの先生が変わることを恐れて、引越しを悩みました。が、昨年三月若林区へ転居。次男も小学生になり、「新居近くの小児科でも大丈夫」と思ったのですが、、、。残念乍ら良い病院にあたりません。納得できず、やはり頼ったのはかわむらこどもクリニックでした。お話を聞いて頂いて、とても嬉しかったです。(そもそも次男は、転居しても他の病院を拒否し続けていたのでした。うちの次男坊、君の目は確かだったね!) 私たちが、このクリニックに来るのは、先生もスタッフの方々もみーんなひっくるめた、この病院が安心できるからなんですよねえ。どうぞ、いつまでもここにこして私達の不安をとりのぞいて下さいね。先生、そして皆様、お身体を大切になさって今後どうぞ宜しくお願いいたします。若林区 今野 恵

10周年おめでとうございます!!。色紙にも書きましたが、ちょうど10周年の日に診ていただいてラッキーでした!!。これからもたくさんの患者さんとお母さんが先生のところに来て安心して帰っていける病院であってほしいなあと思います。大和町 櫻井



仕事で東北中を回る事が多い。そんな職場でよく出る話題。「知らない土地へ行くとコンビニを見つけるとほっとする。」特に過疎地へ行ったときはなおさらだと。いろんな意味がこもっているだろうが何よりもコンビニに対する安心感、信頼感の現われがあると思う。コンビニは品揃え、価格、そして24時間営業している点は全国共通。特別な事情のない限り品切れということもない。考えてみれば誠に頼れる存在になっている。話はまったく変わるが、「医は仁術なり」と言う言葉がある。子供の付き添いでたまにクリニックにお邪魔する。又家内からクリニックでの子供の様子を聞く。傍若無

人の子供の態度にはまさに汗顔の至りであるが、それに対する先生、またスタッフの皆さんの対応はまさに仁術であり、またそれは人術にも忍術にも通じているように思える。その技のおかげでいつも本当に安心させて頂いている。人間病気にならない方が良いには決まっているが生きているからこそ病にも罹る。もちろん予防は大切だが、いかに上手に付き合うかが大事だと思う。しかし如何せん素人の我々が自力でそんなことが出来るわけもなく、なまじっか本など読むよりはその道のプロにお任せできれば、それが最良の策だと思う。しかし最近あまりにも「仁術」からかけ離れた医療事故が頻発している。医療に対する信頼が崩れてきている。医者すらも賢い目をもって選択しなければならぬ時代になってしまった。幸い、我が家の場合は研究熱心で仁術にも長けている先生が近くにいるので、今まで安心して子供の健康と向き合ってきた。クリニックの待合室では他の親御さんの表情に病気だからつらいというあたりまえの表情の他に、どことない安心の表情をいつも垣間見る。コンビニのCMのコピーに「街のホットステーション」というのがあったが、今後とも街の皆が安心感でホッとできる、心が温かく(hotに)なる、「街のhot station」で、あり続けて頂きたいと願っております。青葉区 桜庭 雅彦



10周年おめでとうございますm(_)_mっていうか お疲れ様の方が正しいかも…。長男の瑞帆が生まれた時はまだ「かわむらこどもクリニック」に出会ってなくて風邪を引く度小児科を転々としていました。なかなか自分の信頼できる方針を持っている病院に出会わずにいたのです。度々顔を出しているにもかかわらず新看のように扱われたり行く度に違う先生が診察する病院。行き慣れている患者しか分からないシステムの病院。色々な病院がありました。そんな時に「かわむらこどもクリニック」に出会えた時の私の喜び分かりますか(*^_^*)信頼できる先生に優しい看護婦さん。可愛らしい病院内に患者の事を考えてくれる授乳室やおもちゃ（今はそういうのが当たり前みたいになってるけどあの当時は少なかったんですよ）ああここが私の探してた病院だ！！やっと出会えた(ToT)って心から思いました。私も小さい頃は体が弱く（今では考えられないんですけどね）月曜は病院に行き火曜水曜と休んで木曜日に幼稚園や学校に行きまた週末になると体調を崩し病院に通う日々を過ごしていました。その時にお世話になってた先生は私には優しいっていうか何にも言わないのですが母には怒るのです。子供は自己管理が出来ないのだから親が気をつけてやらないでどうするんですか！って具合に。私がゼイゼイする間隔ってのも一年に一回とかだったら良かったのでしょうか。なにせ一週間に一度みたいなペースでしたから母は病院に行くのが苦痛だったみたいです。そんな母の事を考えると信頼できる病院に出会えた私と子供たちは幸せです(*^_^*)どんなことがあっても川村先生と看護婦さんたちが何とかしてくれる！っていう安心感が私を支えてくれています。あんまり言い過ぎるとかえって嘘っぽっていうか さくらっぽいので今回はこの辺で…。今まで本当にありがとうございます。そしてこれからもよろしくお願ひします。仮に引越しても通える限り通います。覚悟してくださいね(^_3^_)柴田より。あ～やっぱり まだ言い足りない(〇_〇)元気で末永く頑張ってください。

かわむらこどもクリニック10周年おめでとうございます10年前私はまだ横浜で社会人なりたてでした。若かった……。10年後仙台でこういう（どういう？）生活が待っていようとは夢にも思っていなかったので、感慨深いです。あの頃に戻れたら何をどうやり直そう？？妄想が膨らみます。フーッ私が仙台に来たのは4年近く前、娘の瑞穂がよちよち歩きの1歳3ヶ月の時でした。小さく生まれた娘でしたが、風邪ひとつひかない赤ちゃん時代をすごし、それまで住んでいた横浜では予防接種と健診以外に小児科を訪れたことは全くありませんでした。そんな調子でしたのではじめて風邪でかわむらこどもクリニックを訪れた時は風邪とは気付いていなくて、てっきり直前に食べた（チキンラーメン）が喉に引っかかったものとばかり信じていたのです。時効だと思って今明かしますが……。咳をしながら入っていったので問診にきた看護婦さんが「今日は咳？」「はい」（チキンラーメンそんなに引っかかっているのかなあ。心配。恥ずかしいなあ）風邪だなんて思っていないので、熱も計っていなかったのに病院で計ると8度近くあり「家ではどのくらいでしたか？」という看護婦さんの言葉にドギマギ。「咳は乾いてますか湿ってますか」（エッ、乾いてる湿ってるって何それ？）「痰はからんですか」（そんなことわかんない……）（チキンラーメンのこと言ったほうがいいのか。でもそんなもの食べさせて怒られちゃうかな……そういう問題ではない……）あくまでもチキンラーメンにこだわっていた私の頭でしたが、どうやらただの風邪だったのです。チキンラーメンのことは言えなかったのですが風邪だと分

りここでやっと（言わないで本当によかった！）と思ったものです。馬鹿親炸裂！（親馬鹿ではない）このときはじめてここでの細かな問診に触れ、びっくりした記憶だけがあります。とてもシステムチックな方法ですね。今度来る時はちゃんと症状まとめておこうと思ったものでした。今ではクリニックで「どうしましたか？」と聞かれて「風邪」と答えているお母さんを見ると（新人ね）と気分はすっかり牢名主です。それでも3歳になるまではあまりクリニックを訪れることもなかったのですが、3歳の誕生日を境に頻繁にお世話になるようになり、瑞穂もすっかりクリニック好きの子に成長しました。娘がクリニック好きなわけ。「だって本がたくさんあって楽しいんだもん！」彼女にとっては診察付の図書館といった所なのかもしれません。咳が出ている週末には、「お休み前に川村先生のとこ行っとく？」と言うくらいです。看護婦さんやお姉さん、先生のお仕事を観察するのも楽しいようです。「今日は看護婦さん1人お休みだったねえ」と言っているときもあります。先日ワークをやっていたら、しりとり問題に薬の絵がかいてあったのですがすかさず「テ・オ・ドー・ル……ン・違うなあ」とぶつくさ言っていました。薬嫌いの彼女は将来お薬を研究する博士に





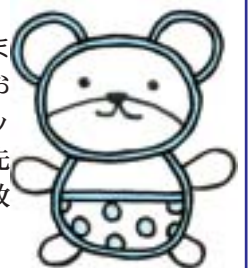
なって、貼るだけで治るお薬を開発するそうです。でも、看護婦さんになって点滴もしてみたいので将来の夢は【お薬を研究する博士と看護婦さん】に決定のようです。ちょっと欲張りな夢。母がクリニック好きなの。①先生、スタッフ共に皆優しい。(友達などの話を聞くとこれって結構珍しいのかなあなんて最近思うのです。家で何かおかしい時、とりあえず電話してみようと思えるのはここからきているのだと思います)。②皆自信をもってお仕事しているのが気持ちいいし、安心できる。(特にこちらが心細くなっている時はこれが大きいです) その他、新聞やホームページで先生の考えが分かるとか、綺麗、明朗会計(っていうのかな?) とかたくさんありますが、とにかく優しい病院というのが一番です。クリニックにあまり通っていない頃はちょっぴり肩肘張って訪れていたような気がしますが、今は反対に癒されにいらっているような気がします。10周年を迎えても欲張りな先生はきっと(もっとより良く!)と食欲に求めていかれることと思いますが、いつまでも「忙しいけれど優しい病院」のままでいてください。そして20年後、瑞穂が貼るだけで治る薬を開発したら使ってやってくださいね。今度は親馬鹿パワー炸裂。最後に、どうぞこれからもよろしくお願いします。かわむらこどもクリニックの皆様。青葉区 高橋留美

開業10周年おめでとうございます。私達を始め、沢山の先生を先生は10年間も救ってこられたんですね。本当にすごい事です。ありがとうございます。かわむらこどもクリニックとの思い出はそれはそれはいっぱいあります。行く度、毎回毎日が思い出です。そんな中、確かに言える事は、子供を診てもらうのはもちろんの事、いつも母親の方が元気づけられるという事。母親の不安を取り除いてくれる場所であるという事。それが他の病院では決して味わえない、かわむらこどもクリニックならではの特色だと感じています。ですから、人気があるのもあたりまえ。たとえ何時間待たせても、駐車場が空いてなくても、かわむら先生にみてもらえるのならば、ぜんぜんへっちゃらな私です。都築みゆき

10周年の記事とはちょっと違ってるけど私が先生にお話したかった思い出と看護婦さんへの思いをお話します。12月にインフルエンザの予防注射を受けに行った時涼平とまゆが入った時に「あ〜かわむら先生のおいだ〜」といったのです。私にはわかりません。でもその言葉を聞いて私も思い出しました。先生のお父さんのところに通った昔の自分を。玄関の脇に水槽がありその下が本棚になってて前におもちゃがあって、公衆電話の脇に検便の標本があるだび気持ち悪くなったり、とにかく全部とっていいほど鮮明に覚えています。私は必ず扁桃腺が腫れて熱が高くいつもお尻に注射でした。先生のお父さんは先生と正反対というか大きくて恐かったです。注射を打つために席をたつ時ペンを置く音がするのが恐かったです。でもいつもその後フォローしてくれる看護婦さんが先生のお母さんでした。いつも私に何か声をかけてくれてあまり混んでない時は母と色々話していました。うちの母はもちろん先生が一番大事だけどそれと同じ位看護婦さんも大事で親が安心して話せる姿を子供は見てるといいます。私も皮膚科や眼科や先生以外の病院にかかることが沢山あるのですが、何かと気持ちをあらわにする看護婦さんがいます。ちょっと質問しただけで切れちゃったり子供を嫌そうに見たり、嫌みを言われてる人もみたことがあります。でもかわむら先生の看護婦さんはどんなに忙しくてもいつも変わらずきばきと行動して声をかけてくれて時々笑い話をしてくれます。私が子供の時と一緒になんだなと思いました。四人の子供達が大人になった時私のように病院の事看護婦さんの事どのような記憶に残っているのでしょうか?。将来聞くのが楽しみです。新聞も見せる事ができます!もしかして孫まで診て頂く時がくるかもしれないですね!、先生。いつまでも頑張ってくださいね。余談ですが二年生の生活の授業で「ぼくのおいたち」として今までの写真にその頃の思い出を親に聞いてレポートしてかくというのがあったのですが、涼平に一歳の頃の事を聞かれて嘔吐下痢症にかかって毎日点滴してかわむら先生に助けてもらったんだと力説してしまいました。数日後授業参観があり張り出されたレポートをみると大きな字で「ぼくは一才のころ死にかけてかわむら先生にたすけてもらった」と書いてありお母さん達に「大変だったのね」と言われました。先生の人気度はアップしたと思います。長くなってしまいました。今回は先生の事ではありませんがこんな時じゃないと思ってる事もなかなかメールできないので・・・お役にたてなかったかもしれませんがこのへんで終わりにします。それではまた。 泉区 成田

かわむら先生へ。10周年おめでとうございます。早いものですね。振り返ると子供たちと共に、はや7年も先生にお世話になっています。この7年は私にも大きな人生の転換期でした。自分のことで精一杯で子供の体調の変化に気が付かず高熱になって初めて慌てて先生のところへ駆け込むこともしばしば…。なんて悪い母親なんだろう…と落ち込む私に、いつも優しく言葉を掛けてくれたおかげでいつのまにか子供と一緒に元気になっていました。ちょっとご無沙汰している間にも先生の知名度はどんどん上がり、なんだか少し寂しいと感じています?!(やきもち)それとスタッフの皆様には本当に感謝しています。これだけ忙しい小児科もなかなかないのでは?と思いますが、常にきばきと業務をこなす姿はとても気持ちが良いです。最後に、ご多忙とは思いますがますます地域に根ざし、これからの日本を支えるであろう子供たちの健康と未来を共に守っていただきたいな一と思っています。 青葉区 西

かわむらこどもクリニック開業10周年、おめでとうございます。藤原淳平、さくらの母でございます。かわむら先生には、淳平が赤ちゃんの時からずっとお世話になっていますが、先生の素晴らしいお人柄や、わかりやすい説明、スタッフの皆様の笑顔や適切なアドバイス等、とても素晴らしいクリニックと実感しております。いつもありがとうございます。これからも忙しい日が続くと思われませんが、先生、スタッフの皆様、どうぞお身体ご自愛下さいませ。これからも母、子供共々どうぞよろしくお願い致します。藤原若子



川村先生&スタッフの皆様！10周年おめでとうございます！。原嶋晃生&泰生の母です。私が初めて貴院に晃生を連れて行ってから2年半経ちました。それ以前は貴院の評判の良さは耳にすれど、「いい病院だけにとにかく混む！」と聞いて他院に通っていましたが、でも他院での受診は正直いつも納得できず、不安で仕方ありませんでした。2年半前、晃生が喘息かもしれないと他院で言われ、薬を止めると悪くなることを繰り返した結果、私は貴院に行くことを決意しました。行って見て他院と最も違ったのは、親身になって私の納得がいくまで先生が説明して下さいました。当時晃生は入院しなければならぬ状態で、とても不安でしたが先生がちゃんと喘息についての勉強を私にさせて下さったお陰で、私は晃生が元気になると信じる事ができたのです。ちゃんとした知識って重要ですね。下の子（泰生）が生まれてもうすぐ5ヶ月。泰生は最初から先生にみて頂いているので安心です。晃生のことで不安だった日々は無駄な時間でした…。川村先生、我が家のホームドクターとしてこれからも親子共々よろしくお祈りします！。宮城野区 原嶋玲子



妊娠中の転勤。家を探しに一緒にいた母が一言。「あんたここに住みなさい」「かわむらこどもクリニック」の看板が目に入ってきました。この母の一言には今でも感謝しています。何故なら、娘が生まれてからいったい何回ここに通ったことでしょうか。その度に先生をはじめ、看護師、スタッフの皆さんに支えられてきました。「何かあったらすぐ来て」の一言がどれだけ安心させてくれたか。また、私にとってここは病気を治すだけの場ではありませんでした。何度か健診で一緒になったお母さんとはすっかり仲良しになり、ともに子育てに一喜一憂しています。娘は今年の1歳の誕生日には点滴を受けていました。1年後の今、「先生のとこ行くか」と言えば「とんとん、あー」（胸の音を聞いて口を開けるマネ）と玄関に向かい、行けば帰りたくないと言います。しかし、私たちもいつかは別の土地に移ることになります。けれども、「かわむらこどもクリニック」に通ったこの数年間はどこへ行っても忘れることはないと思います。今までの感謝とまだまだお世話になります、の気持ちをこめて…10周年おめでとうございます！！。青葉区 牧野奈々

川村先生。祝!10周年!!この度は、開業10周年おめでとうございます！。いつも大変お世話になっております。そして、いつもほんの些細な事にまで丁寧な耳を傾けてくださり、ありがとうございます。またスタッフのみなさんの細かい心配りにいつも感謝しています。息子も先生が大好き！「川村先生はボクの先生だよ」と言い切っています(^_^)。なぜか先生のお顔を見ただけで元気になってしまうようです。でもそれはひょっとしたら私のほうかもしれません。先生のちょっとした一言、そして時にはピリッときく一言?になぜか安心します。私達には計り知れないご苦労がたくさんある事とは思いますが、これからも「魅力あるクリニック、かわむらこどもクリニック」でいてください。そして、新聞、雑誌等クリニック以外のところで川村先生に会えるのを楽しみにしています。またくれぐれも先生、スタッフの皆さんお忙しい毎日、どうぞお身体に気をつけてください。かわむらこどもクリニック、バンザーイ！！。青葉区 益子怜&母。

毛利涼楓・太洋・康聖の母です。かわむらこどもクリニック開業10周年おめでとうございます。数年前、初めて先生に受診して頂いて以来、多いときは毎週、時には毎日通っていた我が家ですが、先生のお蔭で、涼楓も太洋も以前より元気になって受診する機会がめっきり減り、また、昨年末に康聖が生まれたことで、私は二ヶ月以上もクリニックを訪れることができずでした。本来なら喜ぶべきなのでしょうが、先生やスタッフの方々早く会いたかったです。今日、康聖が二ヶ月に入り、早速検診をして頂き、安堵と元気をもらって帰宅しました。今までより母乳がたくさん出るようになったんですから、先生は母親の精神安定までできる小児科の名医です。いつも、普通のお医者さんには聞けない小さな疑問・不安にも丁寧に答えて下さり、ありがとうございます。時にはしかられることもありますが、それだけ子供のことを真剣に考えて下さっていると思うと、しかられるのもありがたいことです。先生だけでなく、中米婦長はじめスタッフの方々にも、病気で不安な心を何度も癒して頂きました。太洋の病状が心配で、つい涙した時に、中米婦長に励まされてがんばれたことは、一生忘れられない思い出です。小児科医の不足が、マスコミにも取り上げられる問題になっているにもかかわらず、こんなにも心から信用できる川村先生と、それを支えるスタッフの方々とお出会えたことが、我が家の子育てにとって大きな安心となっています。10周年という節目を迎え、多忙な毎日でしょうが、お身体を大切に、今後も我が家のホームドクターとして、よろしくお祈り致します。宮城野区 毛利 涼楓・太洋・康聖の母

開業10周年、おめでとうございます。ここで、私がうれしかったことを書かせて頂きます。病院や医者に対して、何か親しみにくいものがあるものですが、なぜか「かわむらこどもクリニック」は、先生やスタッフの方に会いに行きたくなるような病院なんですよ。それは、かわむらこどもクリニックに行けば「暖かく患者を受け入れてくれて、安心がもらえる」からではないでしょうか。以前、子供が血液検査をすることになったとき、私は自分のほうから「尿検査もお願いしたいのですが」と、言ってみました。医者から言い出さないことを、患者側から言うのは、少し遠慮があります。まして、とても混んでいましたし、余計な仕事を増やしてしまうからです。私はおそらく、尿検査の必要はないと断られるだろうと思っていました。すると先生は、「うん、いいよ。尿検査もするから」と、言って下さったのです。そして私が「すみません」と言うと「何も謝ることはないんだよ。お母さんの心配を取り除くのも大切なことなんだから」と、おっしゃって下さいました。この時先生の言葉は、心配が大きく膨らんでいた私にとって、とてもありがたいものでした。そして、まさか小児科で、子供の事以外に母親のことまで考えたあのような言葉をかけていただくとは思っていませんでした。以前通っていた小児科は「医者の言っていることだけ聞いていればいいんだ」という感じが強いところでした。不安に思っている、こちらからは言い出しにくい雰囲気だったのです。このよ



うに、医者に対してよくないイメージだけがインプットされていた私は、「ああ、こういうふうな考えを持って、子供たち、その母親に接して下さる先生もいるんだ」とわかり、あの時の先生の言葉がとてもうれしかったのを覚えています。先生は常に、母親の不安、心配、疑問すべてに耳を傾けて下さり、わかりやすく丁寧に説明して下さいます。そして、診察だけに留まらず、子供たち、お母さん達のために自分の時間を削ってまで、さまざまなことに取り組んでおられる。こんなにも尽くして下さいる先生は、川村先生だけです。私は、本当に「かわむらこどもクリニック」に出会えたことを幸せに思います。なんかまとまりのない文章になりましたが、とにかく『川村先生は最高!!』と、いうことです。これからも、お身体には十分気を付けて、20年、30年と頑張ってください。宮城野区 吉田由美子



スタッフから

開院10周年おめでとうございます。私もかわむらこどもクリニックに勤めて9年目になりますが、沢山の子供達やお母さん、お父さん達と出会いいろいろな事を学び、教えて頂きました。子供達の成長は早いもので、数ヶ月会わないだけで言葉、行動共に成長している姿には日々驚きの連続です。驚きと言えば川村先生の新しい事へのチャレンジ精神です。いつも見習いたいと思いつつも、なかなか見習えず反省する日々です。忙しい診察の中でも『不安と心配の解消』を理念とし、子供や母親達と接する先生を介助しながら聞いていても、納得する事ばかりです。素晴らしい川村先生の元で、仕事ができるとても光榮に思っています。さて、私の9年間はどうかだったのでしょうか。まだまだ反省する日々の多い私にも“婦長さん”なんて声を掛けてくれる方がいると、ちょっと恥ずかしい気持ちでいっぱいです。それはきっと胸を張っていられる自分には、物足りないからではないでしょうか？自分の持っている明るさや元気が、不安や心配で来院された方が帰る時には安心して帰れるようサポートできたらと思っています。同じ子供を持つ母親、そして家庭を持つ主婦、仕事をしている社会人として、共通するものが沢山あります。もしかして全てに於て、手を抜いているのではと思うこともしばしばありますが、完璧な人はいないと思いつているので、気付かれているかもしれませんね。もし気付いたことがあったら、気軽に声を掛けてください。自分を振り返り、また私自身を成長させたいと思います。これからも気配りの出来るよう努めたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 婦長 中米由美子



クリニック開業10周年、本当におめでとうございます。先生が歩んだ10年という長い道のりの、ほんのわずかしか共にしていませんが、私にとってこのクリニックの存在はとても大きなものとなりました。私がこちらでお世話になって1年半になりますが、多くのことを学ぶことができました。中でも「母親の不安と心配の解消」を理念として働く先生の姿に感激しました。先生が10年間ずっとその理念を守り続けてきたことは、今のクリニックを見れば一目瞭然です。私が看護師になって10年以上になりますが、川村先生にもっとはやく出会っていたらなあ・・・なんて。まだまだ未熟な私ですが、先生の足をひっぱらないように頑張ります。日々多忙な先生。実年齢がわからないエネルギッシュな先生ですが、お体だけは大切にしてくださいませ。 看護スタッフ 佐藤陽子

川村先生、開業10周年おめでとうございます！！自分が、かわむらこどもクリニックと出会ったのは3年前で、開院当時の話や中米さんの！？話などを聞いていると、まだまだ自分なんてへなちょこだなあ・・・と思いきらされます。

10年かあ・・・なんて、人事のように感心している場合ではなく、このかわむらこどもクリニックで子供達からももらったたくさんの方の幸せに感謝し、この病院に負けぬよう素敵に歳をとっていったらいいなあ・・・と思っています。先生っ、あんまり働きすぎないで、だけどこれからもバリバリ頑張ってくださいねっ！私も邪魔だけはしないように頑張りますっ…。 看護スタッフ 茂木玲子

開院10周年おめでとうございます！すっかり有名になり最近では、雑誌やテレビ、ラジオにと取材の電話を受けることも増えてきたように思います。全国に「かわむらこどもクリニック」の名が広まる華やかさの裏で、休む暇も無い程仕事をされてる先生を見てきました。そんな先生を尊敬と心配と自慢の思いでいっぱいです。そして、先生の元気や意欲はどこからくるのだろうと・・・それは、間違いなく患者さんの信頼と励まし、応援などに支えられているのだろうと思います。私ももうすぐ7年目を迎えますが、患者さんに励まされ支えられてきたことは数多くありました。先日も「長いよね。よく頑張っているよ！」なんてお言葉を頂きました。病院のこの10年の成長に比べ、私は7年という時間で一体何ができたのだろうと・・・目に見える成長とはなかなか難しいことではありますが、私も子供たちや病院に負けぬよう何か一つでも成長記録が残せたらと思います。 事務スタッフ 三浦江理子



10周年おめでとうございます！こんなにお母さん達に信頼され、好かれている先生は他にあまりいないのではないのでしょうか。先生に診てもらいたいと遠くの方からわざわざ来院されるお母さんもいますが、先生は安心という薬も処方しているからなのだろうと思います。そして、そんな病院で働いている私は幸せなんだろうと感じています。いずれ私が親になった時に「かわむらこどもクリニック」のような病院&「川村先生」のような先生に出会うことができればいいなと思います。私もまだまだこの病院でいろんな事を学び頑張っていこうと思っています。どうぞ、よろしくお祈りします。事務スタッフ 福地あさか



読者の広場

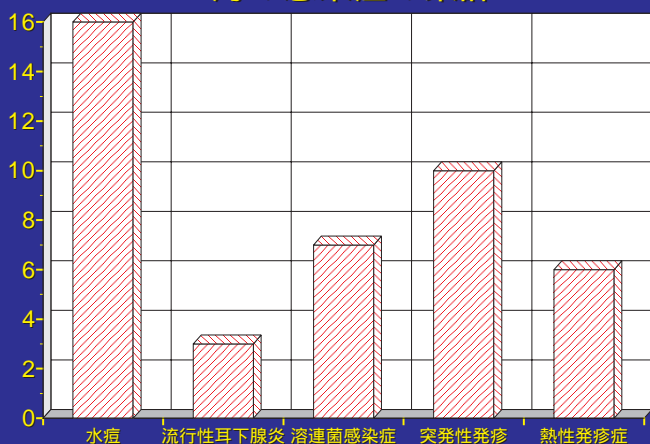
まず最初に10周年に対するメッセージありがとうございました。父の診療所の話では、思わず涙があふれてきました。どのメッセージも本当に身に余るものでした。メッセージに込められた思い、ともすれば忘れられがちになります。初心を忘れず気を引き締めていきたいと思っています。

先月は29件のメールを戴きました。ありがとうございました。今月は紙面の都合でひとつだけ紹介しておきます。実は2月6日にテレビで放映されました。前日取材に来たので、御存知の方もいたかもしれません。東日本放送の“あなたに Que!”です。インフルエンザの特集で、取材したビデオだけでなく、当日電話出演もしました。生電話（どこかで聞いた言葉ですが？）だったので、すごく緊張してしまいました。その割には、長く喋ってしまいました。テレビで観た宮城野区原嶋さんからのメールです。「6日の夕方テレビをつけたら川村先生が電話で出演なさっていたのでびっくりしました。チャンネルをまわしていたらインフルエンザの話題をやっていたので少し聞き入っていたら...、あら？なんだか川村先生みたいな話し方...画面を見たら先生の写真が。こうせいも気づいて画面に近寄り、「これ、こうせいのかわむらせんせい？」...ですって。ほんとはみんなの川村先生ですが、その独占欲がかわいかったので「そう。こうせいのかわむらせんせい」と答えておきました(笑)。さすが我等の名医！とあってテレビ局も噂を聞きつけてきたのですね！。先生が我が家のホームドクターであることに鼻が高くなったことは言うまでもありません。これからも頑張ってください！。今回の記事にも書いたのですが、当院の様々な活動。いろいろな人が見てくれているようです。2月20日には宮城県福祉協議会の依頼で保育師さん対象に、「小児科医による育児支援の試み」を講演してきました。それと4月から東北放送のラジオ番組で、時間をもらえることになりました。月1回ですが、毎週第1木曜13:30から10分間、原則として生放送ということになりました。内容は未定ですが、アナウンサーとのやり取りで、子どもの健康や病気の話などに触れたいと思います。もう一つ（他にもあるのですが）、仙台リビングの紙面のリニューアルにともない、月1回子どもの健康を担当することになりました。まだ内緒（といっても言ってしまうのですが）ですが、全国放送（ラジオ）も担当する可能性も出て来ました。また当院のプロモ（プロモーションビデオ）も、できる予定です。詳しくは、決まり次第次号でも。少し自慢話になってしまいましたが、多くの人に認められてきた証拠なのかなと思っています。都合で紹介出来なかった皆さん、ごめんなさい。よろしくお祈りいたします。

今年のインフルエンザの流行は、ちょっと変わっているかもしれません。例年だと学校などで流行すると、一機に全体に広がってしまいます。ところが今年は一学年で終わりということも、珍しくはありません。またインフルエンザが流行すると他の病気が影をひそめるとするのが普通ですが、今年は同時に様々な病気が見られています。恐らく今年は大流行ではなく、B型の流行が主流のためなのかもしれません。インフルエンザの検査に関して一つ、熱が出てすぐ検査して欲しいと来院する患者さんがたくさんいます。

しかし検査は感染してある程度時間が経たないと、陽性に出ないこともあります。一般的には発熱後12時間ぐらいが一つの目安となっています。覚えておいて下さい。水痘は比較的多く見られます。グラフに載せていませんが、嘔吐下痢症も多く、溶連菌感染症の流行しているところもあるようです。御注意を。

2月の感染症の集計



診療時間変更のお知らせ

3月28日（金）は、宮城野区3歳児検診のため14:00～16:30まで休診とさせていただきます。尚予防接種健診はありません。多少開始時間が遅れることもありますので、御了承下さい。

医学生実習のお知らせ

3月17日（月）に、秋田大学医学部の学生さんの実習があります。御迷惑をおかけすることもありますので、よろしくお祈りします。

3月のお知らせ

- ・在宅休日当番
3月16日（日） 御利用下さい。
- ・栄養育児相談
毎週水曜13:30～ 栄養士担当 無料



編集後記

多くのお母さんやお父さんからの暖かいメッセージとお子さん達の力作、ありがとうございました。この場を借りて、お礼いたします。また紙面に多く詰め込まなければならぬことで、読みにくくなったことをお詫びします。今月号の新聞作成、とても疲れました。最後にもう一度、ありがとうございました。

